

とよた森林学校だより

地域の森・健康診断

第2回 「地域の森を考えよう」 7月23日(土)

旭地区・押井町

「分からないことが多い」と思い至るのは、誠の実践者だ。何もするつもりがないか理解や関心の浅い者ほど分かったつもりでいる。

豊田市の全面積の7割をしめる広大な森林の保全では、森づくり条例を定め、100年の森構想を打ち出し、地域森づくり会議を津々浦々立ち上げ実践を重ねてきた。もう15年以上、着実に成果をあげてきた。全国に誇ることができる。

でも、分からないことがいっぱいなのだ。いや、真摯に実践してきたが故に、課題意識、未解明へのチャレンジがある。

とよた森林学校の新講座「地域の森・健康診断」は、地域森づくり会議の先進地といわれる押井町(旭地区)で、初心に帰り、何が課題なのかをみんなで調べ、考え、話し合った。

地元山主たち、森林ボランティア、森林観察リーダー、森林課小山森づくり担当、蔵治東大教授、北岡フィールドワーカー、50人が集まり人工林と天然林と田んぼや集落の現場に足を運び、気づきと学びを重ねた。

そしていくつかの課題が浮かび上がってきた。蔵治先生の提起をアレンジしていくつか列記する。

①スギ、ヒノキ、広葉樹の巨木化

田んぼや民家が日陰になる。いつ民家や道路、電線に倒れてくるかわからない。現在、公費による支援など公的施策はない。「自己責任」で解決するか？

②災害リスク

どんな森なら風倒、雪害がないのか。大雨による沢抜けが防げるのか。安全で公益的機能を発揮できる「針広混交林」の姿は？あるいは小面積皆伐による天然林化は？

③田んぼに水を引く用水の水不足が深刻

森林の成長は人が使う水を奪っているのか？どんな森がふさわしいのか？

④地域の森づくりは、地域の山主だけの権利と責任か？

地域に通う森林ボランティア、その地域につながる関係市民、知見のある学者やフィールドワーカーも仲間にならないのか？

来年もぜひこの講座を継続したい。未来のため。参加者からの感想をいくつか紹介する。

●「私達の祖父母が植林し残した人工林を健全な形で次の世代に渡すために今私達がやらなければならないことを押井町以外の人たちと共に考える機会をいただきありがとうございました。山主一人の力には限界があり、いかに他の人の力を借りるかアイデアをいただきました。それもまた一人ではできないことでありますが、大変参考になりました。」

●「北岡先生の森林に対する熱い想いに感動しました。今後少しでも何かお役に立てることを、コツコツとやっていきたいと思いました。蔵治先生のお話をもっと聞きたかったです。」

●「蔵治先生のお話がとてもよかったです。60分くらい聞きたかった。北岡先生、小山さん、みなさんの意見、それぞれ大変勉強になりました。」

●「最初から最後の鈴木(辰吉)さんのまとめまで大変関心をもって参加させていただきました。皆さんの行動力、尊敬いたします。自分も森との関わり方を考えていきたいです。」 (山本)



▲地域の問題点を各班で話し合う



▲森林課職員からの人工林の現状説明

夏休み昆虫教室

昆虫の観察を通じて、自然の不思議さや面白さに気づき、
自然観察の楽しさを知ってもらおうことがこの講座の目的です！

第1回 「ブナ林の昆虫観察」

2022年7月24日(日) 面の木峠

夏休み昆虫教室、第1回は面ノ木峠でブナ林の昆虫観察を行いました。

新型コロナウイルスの感染拡大により辞退者が続出し、実施が危ぶまれましたが、少人数ながら楽しい観察会となりました。

気温は日向で23℃くらい、木陰のベンチに座ると心地よい風が吹き抜けます。

目を閉じると、コエゾゼミの通奏低音が響く中、ヒグラシやホオジロのさわやかなメロディーが聞こえてきます。

プログラムは3部構成です。

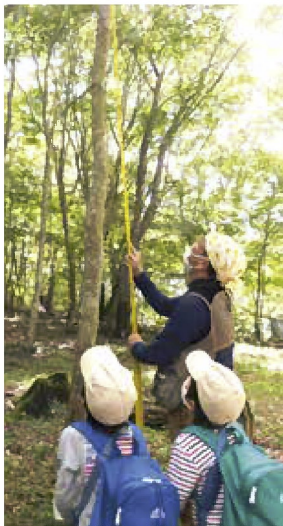
午前中は、セミの抜け殻探しと花に集まる昆虫の観察、午後は水生昆虫の観察です。

このうち子どもたちに一番人気があったのは、水生昆虫の観察でした。

せせらぎの水温は14℃。素足で入ると心地よい温度です。子どもたちは、サンショウウオやプラナリアを見つけて大喜び。オニヤンマのヤゴやサワガニもいました。

セミの抜け殻はエゾハルゼミとヒグラシのものでした。子どもたちもけっこう見つけていましたよ。

ノリウツギの花には、ハナカミキリの仲間などの昆虫がたくさん集まっていて、その美しさに驚きました。(中根)



▲抜け殻の高さ調べ
エゾハルゼミ (平均337cm)
ヒグラシの (平均259cm)



▲ノリウツギの訪虫採集に
ついでに大人も夢中になった！



▲ハコネサンショウウオ (幼体)
前足の指4本、後足の指5本

第2回 「きれいな川の水生昆虫」

2022年8月14日(日) 御内市有林

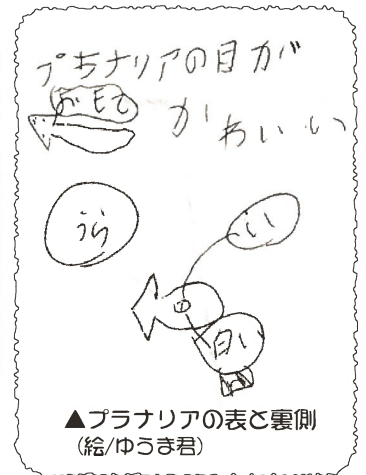


▲水生昆虫の採集 (絵/ゆいと君)

▲水生昆虫
(絵/みなと君)



▲研究者のように
顕微鏡をのぞく子供たち！



▲プラナリアの表と裏側
(絵/ゆうき君)

夏休み昆虫観察会、第2回は御内町の豊田市有林を流れる川で、水生生物の観察を行いました。

台風8号による前日来の雨で、集合場所の豊田森林組合の前を流れる足助川は、水量が多く濁流になっていました。

子どもたちが川に入れるかなと心配していましたが、御内市有林に着いてみると、意外なことに川の水は澄んでいて驚きました。それでも水量はふだんの倍はあるようで、深みに入らないように注意して、水生昆虫をたくさん採集することができました。

捕まえた水生昆虫などの生き物は、カワゲラ、カゲロウ、トビケラ、サワガニなど28種以上でした。

一番多くの種類がいたのは、トンボのヤゴでオニヤンマ、ミルンヤンマ、ムカシトンボなどがいました。

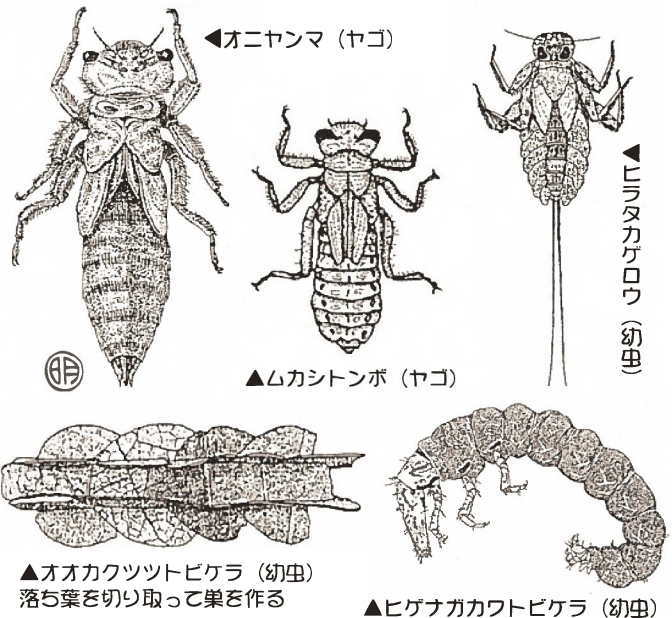
子どもたちに人気があったのは、小石で巣を作るヨツメトビケラや大きなヘビトンボでした。

プラナリアも人気者で、半分に切っても2つの個体に再生するという話を確かめようと、子どもたちが真っ二つに切断していました。そんなにすぐには元の姿に戻りませんよね。(中根)

〈夏休み昆虫教室に参加されたみなさんの感想〉

★今まで陸の昆虫しか知らなかったのが、水生昆虫のことを知って、すごく興味が出ました。生の体験は素晴らしいくて、子供たちも目を輝かせていました。今後の川遊びの幅も広がった気がします！子供にとって専門家の話を聞ける機会をもてて、すごく良かったです。またぜひ参加したいです（杉野）

★夏休みは、ほとんど毎日、川や山に出かけ、虫とりや川遊びをしています。水中生物をほとんど知らず、ヨツメトビケラの幼虫などは、知識がなければ、木の枝や石のかたまりとしが認識できず、素通りをしていたと思います。水のキレイさなどは、子供たちも学び、将来にとっても大切にしていこうとココロを身につけるきっかけになってくれれば良いです。また次回も参加させていたいただきたいです。（成田）



森林観察リーダー入門講座(全5回) 旭高原元気村

森林観察リーダーとして必要な基礎知識を5日間の講座で実践的に学びます。「まだまだ経験や知識が浅くて心配」、「リーダーなんて・・・」という方でも大歓迎。初心者の方でも安心して、楽しくテクニックを学ぶことができます。

8月28日～10月23日の全5回の講座、受講者は11名でした。場所は旭高原元気村。

第1回は森林のしくみ /8月28日(日)

第2回は植物の見方 /9月11日(日)

第3回は観察会の運営 /9月25日(日)

について学びました。

第4回 /10月9日(日)

第5回は模擬観察会 /10月23日(日) です。

第4回と5回の模擬観察会が、この講座の醍醐味です。興味のあることについて調べて発表します。準備さえすれば観察会が出来ることを体験しました。

「大変だったけれど、楽しかった！」という感想もありました。

模擬観察会を2回するのは何故……。

第4回の発表に対し、講師の北岡明彦さんのコメントがあり、各自軌道修正します。そして第5回で劇的に発表内容が良くなった方が多くみえました。

この講座は「入門講座」です。修了された方は、自然と森林を大切にする「森の応援団」として共に活動していきましょ。 （長谷川）



▲「東海丘陵湧水湿地の成り立ち」の説明に、一同感心！



▲リュウブ飯など「森の糰飯(かてめし)」で盛り上がった！



▲コウヤボウキの解説に、身を乗り出して「ほあ〜」



▲アシノエビフライ

▲サルのエビフライ
ちょっとボサボサに食べる

観察会では、大人も子どもも盛り上がる「森のエビフライ」だれが食べたのかな？」



▲イヌツゲ

近年のニホンジカの急増により、豊田市内で減少が著しい樹木が、何種類もあります。暖帯域ではアオキ、暖温帯域ではヤマアジサイの2種類がその代表的樹種で、ほとんど姿を消した場所さえあります。その他にも多くの樹木が、著しい食害を受

けています。

ごく普通のイヌツゲも、ほとんど枝だけになってしまった株や枯れてしまった株を見ることが多くなりました。

イヌツゲの名前は、ツゲ(高級な櫛や将棋の駒に使う)に比べて役に立たない偽物という意味で名付けられたものです。イヌザンショウやイヌガヤと同じ命名方法です。ちょっと可哀相ですね。

イヌツゲは、高さ5~7mになる常緑広葉樹で、モチノキ科の常として、雌雄異株です。強度剪定にも耐えることから、古くより盆栽や庭木に利用してきました。

シカの食害は、強度剪定より被害が強く、やがて枯れてしまいます。

シカ害は実に多くの植物の栄枯盛衰に関わっています。今後の動向が心配されます。㊦

豊田市の貴重な森

愛知県自然環境保全地域

伊熊神社社叢(豊田市・旭地区)

愛知県自然環境保全地域は、すぐれた天然林や、貴重な動植物の自生地などの自然環境を有する地域を、将来にわたって保全しようとするものです。

伊熊神社社殿は、旭地区の南部に位置し、標高約563mの小高い山の頂にあります。この社殿の山頂部と北側斜面に天然林が残り、県の自然環境保全地域となっています。

信仰の対象である社叢(神社の森)は、昔から聖域として、人手を加えることがなかつたので、自然の状態をよく保っています。

社殿の周辺の自然林の構造は、

高木層にシラカシ、ツクバネガシ、ウラジロガシなどカシ類の常緑広葉樹の大木、それに混じて、モミの巨木もみられ、針広混交林となっています。

この社叢には、数本のモミの巨木がみられ、高さ30m程のすばらしいものです。その他、イヌシデ、アサダ、トチノキ、ホオノキ、ウワミズザクラなど落葉広葉樹の大木も混生しています。

亜高木層は、ユズリハ、カゴノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなど暖帯性の常緑樹で占められています。

また日の差し込む林縁の高木や亜高木には、つる性の植物がからみついています。

サネカズラ、テイカカズラ、オオツツラフジなど暖帯性のつる植物と、県下では珍しいキジョランも見かけます。このキジョランを食草とする、アサギマダラの産卵場所としても貴重な社叢です。(鈴木ま)



▲樹高30m近くの巨木が！

森林学校講座の申込方法

1. 豊田市・森の総合サイトTomori にアクセス！

豊田市 トモリ 検索

2. アカウント登録 (初回のみ)

- 「楽しむ・学ぶ」ページ右上の **新規登録** をクリック
- 必要情報を入力し、 **利用規約に同意して登録** をクリック
- 届いたメールのURLをクリックし、サイトで本登録をして完了！

3. 講座の申し込み

- サイト上部の「楽しむ・学ぶ」をクリックし、
- **申し込み** をするをクリック
- 必要事項を入力し、 **登録する** をクリックし完了！

※こちらからも講座の申し込みができます

お問い合わせ・申し込み

- おいでん・さんそん森林学校運営委員会
担当/山本 090-5453-6411(SMS可)
- 豊田市役所 森林課 0565-62-0602



編集後記

suzuki.m



●2022度の「とよた森林学校」の講座は全て終了しました。(冬眠に入ります?!) ですが、森林学校だより12月号に入り切らないほどの講座内容です。続きで、3月号に掲載しますので、ご期待ください！

●植生調査や観察会で山奥にいくと、シカの食害がすごい！林床の草本植物などほとんどない。「サンタさん、トナカイの代わりにニホンジカ、使ってもらえませんかねえ」